

アジア研究教育ユニット（特別経費）平成 30 年度教育研究報告書

事業課題名	フィリピン研修
代表者名	安里和晃
事業概要 (600 字程度)	<p>本事業は授業＋学習支援ボランティア＋フィリピン研修の3つから構成される。学習支援ボランティアは移民（主にフィリピン系児童）の通う小中学校に学生ボランティアを派遣し、日本語支援や学習支援を行う。特殊講義は移民に関する先行研究を取り上げる。フィリピン研修は前者2つの参加の上に成り立っている。学習支援を通して、規範としての多文化ではなく、多文化の現実を直視することを目的としている。多文化の抱える教育の問題が単に学習の遅れにより生じているのではなく、貧困要因、移動要因、社会環境要因、家族要因、生物学的要因などさまざまな要因があることを理解する。こうした経験は学習支援を通じまとめられ、フィリピン研修においてフィリピン政府在外フィリピン人委員会を訪問する際にフィリピンサイドにフィードバックを行う。同委員会は日本向け移民に対する渡航前研修を実施しており、フィードバックは、これから来日する人々に重要な示唆を与えることになる。そこで参加者は英語でディスカッションやプレゼンテーションを実施し、フィリピン大学アジアセンターでも報告を行う。また、授業以外にもゲストを招聘してセミナーを実施し、知見を深める。なおフィリピン研修はインターンシップとして位置づけ、学習支援も授業と関連付ける単位を付与する。</p>
成果の概要 (800 字程度)	<p>今年度も授業、学習支援ボランティア活動、フィリピン研修の実施に加え、NGO 団体受け入れやセミナーを実施した。今年度は当初 15 名が2つの小中学校に分かれ学習ボランティア活動に従事しただけでなく、池田小学校や近衛中学校にも学生ボランティアを派遣した。各学校の教員の指導に従い、日本語教育や教科学習支援を実施し、その成果は、参加するたびにノートをつけてもらいメールで共有した。また授業（特殊講義）においても学習支援で経験したことを共有した。こうした活動を通じ、移民児童・生徒の日本社会の適応、就学上の困難などを実感してもらうことで、多文化の重みを理解してもらうことができたといえる。5 月にはフィリピンに居住する日本人の子（JFC）の支援団体である DAWN の来日を支援し、クレーンドッグという演劇の公演会を文学研究科地下大会議室にて実施した。そこでは DAWN による支援活動、日本に居住する母子の生活に関するレクチャ、さらには演劇後 JFC に対するインタビューを通じ、JFC の問題について理解を深めた。特に、父親に会ったことのない JFC の日本に対する複雑な思いを劇やインタビューで理解することができた。フィリピン研修は昨年度より早く 9 月に実施した。応募者は 7 名、選考を経て 6 名が参加した。また、京都市母語支援員にも参加してもらった。研修ではフィリピン政府在外フィリピン人委員会の協力により、福祉施設、新日系人 JFC 支援 NGO、興業ビザに詳しい専門家、元在日フィリピン大使館労働担当官、送り出し機関に対する聞き取り、日本渡航の結婚移民とのディスカッション、日本語学校見学、アニメの下請け企業見学、保育園、プレスクール、高校や大学の見学などを実施し、短期間で多くのプログラムを実施することができた。こうした学習支援やフィリピン研修の一連の活動は、単に国際交流にとどまるものではなく、国際問題としての移民へのコミット面とである同時に、京都市内における地域問題への取り組みでもある。さらには学習支援の知見をフィリピン政府に伝えるため、英語でプレゼンを実施した。こうした国際的な双方向の取り組みにまで発展させることができた。また、3 月にはフィリピン政府職員 2 名を招聘し、セミナーを実施し、東京を中心にフィリピンコミュニティを訪問した。関係者に深く感謝する。</p>

